

「回遊魚・純淡水魚」は1種、「純淡水魚・汽水魚」はシンジコハゼ1種であった。

参考文献

塚本勝己, 1994. 通し回遊魚の生活史と分布. pp. 280. 東海大学出版会.
後藤 晃, 塚本勝己, 前川光司編, 川と海を回遊

する淡水魚「生活史と進化」, pp. 2-17, 東海大学出版会.

川那部浩哉監修, 1987. フィールド図鑑淡水魚. pp. 186. 東海大学出版会.

田中晋編, 1993. とやまの川と湖の魚たち. pp. 287. シーエーピー.

(1995年12月31日受理)

常願寺川グミ原の土壤動物の予備的調査

布村 昇、宮本 望、平内好子

富山市科学文化センター・富山市梅沢町1-4-17・富山県立新川女子高校

Preliminary Report on the Fauna of Soil Animals in *Elaeagnus umbellata* shrub in Jyoganji River, Toyama Prefecture

Noboru Nunomura • Toyama Science Museum
Nozomu Miyamoto • Umezawa-cho 1-4-17, Toyama City
Yoshiko Hirauchi • Niikawa-jyoshi High School

常願寺川には日本最大のアキグミの原がある。これは常願寺川は絶えず、氾濫をくりかえし、暴れ川であるが故に、アキグミの原が出現しているもので、たいへん特徴的なものと思われる。そこにすむ生物相を明らかにして、その生態系の研究に貢献することが必要と思われる、そこにすむ土壤動物の調査を予備的に試みた。

もとよりこの広大な地域の土壤動物相を調査し、その大勢を判明させるには多大な時間を要するが、この重要で興味深い生態系の一端を理解するための第一歩として予備調査を行い、調査品を同定し、また県外の専門家の同定を仰いだので記録

しておく。

予備的に調査したこの結果がどれほどの意味を持つか疑問であるが、これを契機に少しでも多くの調査や研究が行われることを期待して、データを記録しておく。以下、特に断っていないものは全てアキグミ林である。

なお、宮本は宮本望、布村は布村昇、平内は平内好子、太田は太田道人の採集もしくは確認を示す。また、見つけ取りの他、布村もしくは平内がつるぐれん装置により、抽出したものもある。中型土壤動物には、確認個体の記していないものもある。

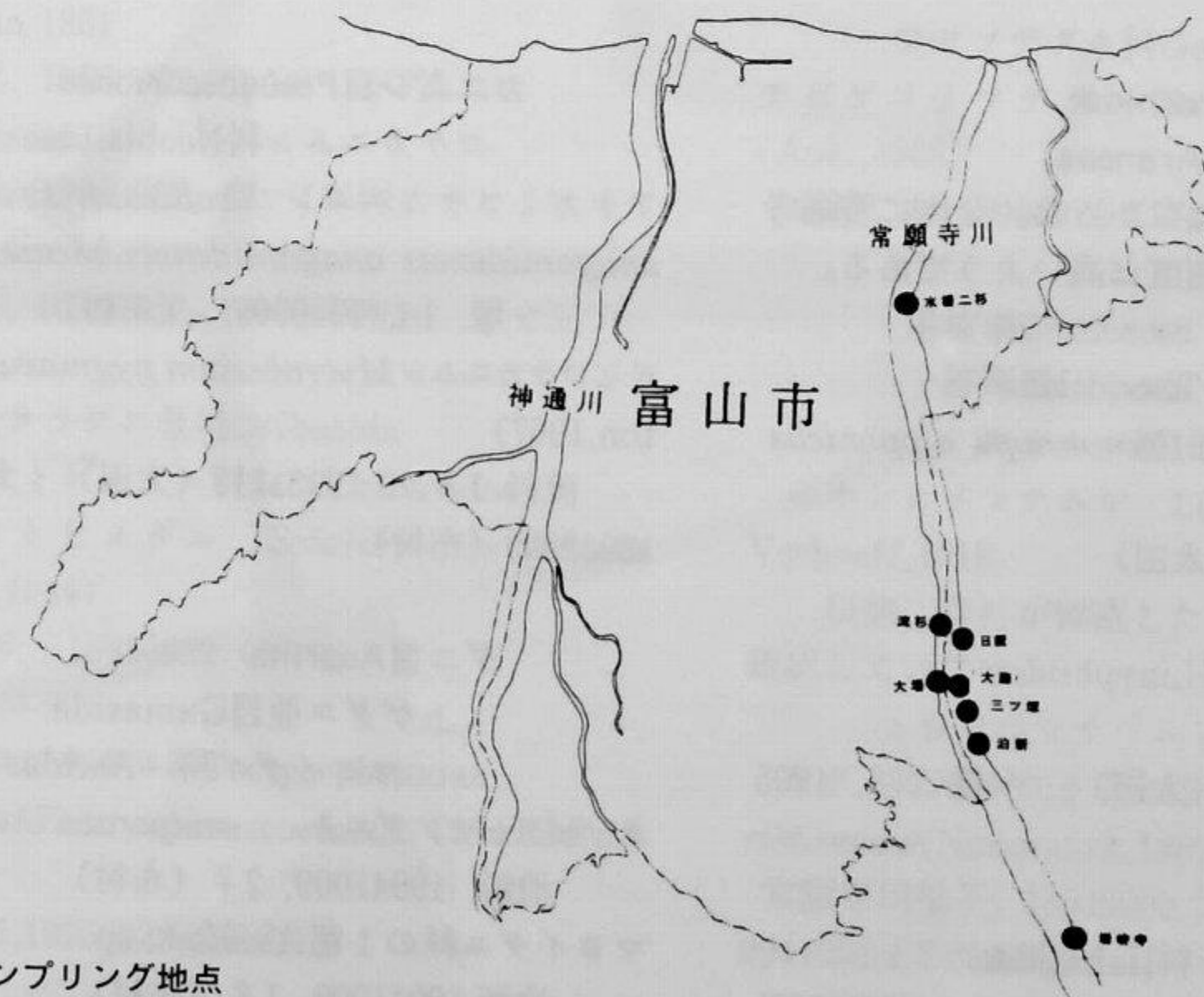


図1. サンプルング地点

軟体動物 (貝類) Mollusca

常願寺川グミ原の陸貝の生息密度は少ない。
同定は全て宮本が行った。

腹足綱 Gastropoda

有肺亜綱 Pluomonata

柄眼目 Stylommatophora

ナンバンマイマイ科 Camaenidae

ニッポンマイマイ *Satuma (Satuma) japonica*
(Pfeiffer)

三ツ塚, 19951012 (宮本) ; 西大森, ニセアカシ
ヤ林; 19951012 (宮本) ; 岩峯寺斜面草むら, 199
51012 (宮本)

オナジマイマイ科 Bradybaenidae

オトメマイマイの1種 *Trishoplita* sp.

大場, 19940909 (布村) ; 三ツ塚, 19951012 (宮本)
ウスカワマイマイ *Fruticicola (Acusta) despecta*
sieboldiana Pfeiffer

大場, 19940409, 1ex (布村)

ノトマイマイ *Euhadora senckenbergiana*
notoensis Kukroda & Teramachi, 1954

三ツ塚, 19951012 (宮本) ; 西大森付近, ニセア
カシヤ林, 19951012 (宮本)

ヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita*
quaesita (Deshayes, 1850)

三ツ塚, 19951012 (宮本)

節足動物 Arthropoda

クモ綱 Aracnida

クモ目 Araneae

この地域クモの調査はなかった。全体に常願寺
川グミ原のクモの生息密度は高いようである。

ヒメグモ科 Theridiidae

スネグロオチバヒメグモ *Stemmnops nipponicus*
Yaginuma, 1969

流杉, 19931112, 1y (太田)

サラグモ科 Linyphiidae

サラグモ科の1種

流杉, 19931112, 1y (太田) ; 水橋二杉, 1995
0922, 2y (平内)

ハタケグモ科 Hahniidae

ハタケグモ *Hahnia corticicola* (BOS et STR) 1906)

大場, 19940909, 1♀ (布村)

ハタケグモ属の1種 *Hahnia* sp.

水橋二杉, 19950922, 2y (平内)

ハタケグモ科の1種 *Hahniidae* sp.

大場, 19940909, 1y (布村)

コモリグモ科 Cycosidae

カイゾクコモリグモ属 *Pirata* sp.

水橋二杉, 19950922, 3y (平内)

シボグモ科 Ctenidae

シボグモ *Anahita fauna* Karsch 1879

水橋二杉, 19950922, 3y (平内)

ワシグモ科 Cinahpsidae

メキリグモ属, *Gnaphosa* sp.

水橋二杉, 19950922, 1y (平内)

ケムリグモ属の1種 *Zelotes* sp.

大場グミ原, 19940909, 1y (布村)

ハエトリグモ科 Salticidae

アオオビハエトリ *Silerella vittata* (Karsch, 1879)

大場, 19940909, 1y (布村)

マミジロハエトリグモ属 *Evarcha* sp.

水橋二杉, 19950922, 2y (平内)

Lasioseious sp.

日置, 19941009, 1♀ (布村)

カニムシ目 Pseudoscorpiones

コケカニムシ科 Neobisiidae

アナガミコケカニムシ *Neobisium Probisium*
anagamidensis anagamidensis Morikawa, 1957

三ツ塚, 1d, 19940909 (布村)

チビコケカニムシ *Mycrobisium pygmaeum* (Ellings
ton, 1907)

流杉 1♀, 2d, 19931112 (太田) ; 大場, 8d,
19940909 (布村)

ダニ目 Acarina

トゲダニ亜目 Gamasida

マヨイダニ科 Ascidae

ホンゲアトツノダニ *Asca sculptrata* Aoki, 19680

泊新, 19941009, 2♀ (布村)

マヨイダニ科の1種 *Ascidae* sp.

泊新, 19941009, 1♀ (布村)

イトダニ科 Uropidae

イトダニ科 Uropidaeno の1種

日置, 19941009, 1♀ (布村)

ケダニ亜目 Prostigmata

アギトダニ科 Rhagidiidae

ナミトゲアギトダニ *Robustocheles mucronata*
(Willmann, 1936)

水橋二杉, 19950922, 1y (平内)

テングダニ科 Bdellidae

アカテングダニ *Bdella muscorum* Ewing, 1909

水橋二杉, 19950922, 1y (平内)

ハマテングダニ *Biscirus silvaticus* (Kramer,
1881)

水橋二杉, 19950922 1y (平内)

オンソイダニ科 Cunaxidae

Cunaxa lukoschusi Smiley

水橋二杉, 19950922, 1♀ (平内)

ハモリダニ科 Anystidae

ハモリダニ *Anystis baccarum* (Linnaeus, 1758)

水橋二杉, 19950922, 2y (平内)

タカラダニ科 Erythraeidae

アリマキタカラダニ *Erythraeus nipponicus*
Kawashima, 1961

水橋二杉, 19950922, 1y1♀ (平内)

Abrolophus sp.

水橋二杉, 19950922, 12y (平内)

Hauptomania sp.

水橋二杉, 19950922, 1ex (平内)

ササラダニ亜目 Oribatida

オトヒメダニ科 Scheloribatidae

コンボウオトヒメダニ *Schelorbates latipes*
(C.L. Koch, 1844)

水橋二杉, 19950922 (平内)

クワガタダニ科 Tectocephidae

クワガタダニ *Tectocephus velatus* (Michael, 18
80)

水橋二杉, 19950922 (平内)

アミメオニダニ科 Nothridae

ハナビラオニダニ *Nothrus biciliatus* C.L. Koch,
1841

水橋二杉, 19950922 (平内)

ヘソイレコダニ科 Euphthiracaridae

ヒメヘソイレコダニ *Rhysotritia ardua* (C.L.
Koch, 1841)

水橋二杉, 19950922 (平内)

ツブダニ科 Oppiidae

ナミツブダニ *Oppiella nova* (Oudemans, 1902)

水橋二杉, 19950922 (平内)

コイタダニ科 Oribaturidae

ニセコイタダニ *Zygoribatula truncata* Aoki,
1961

水橋二杉, 19950922 (平内)

コソデダニ科 Haplozetidae

ケバマルコソデダニ *Peloribates barbatus* Aoki,
1977

水橋二杉, 19950922 (平内)

タテイレコダニ科 Oribotritiidae

タテイレコダニ科 sp. *Oribotritiidae* sp.

水橋二杉, 19950922 (平内)

フリソデダニ科 Galumnidae

チビゲフリソデダニ *Trichoglumna nipponica*
(Aoki, 1966)

水橋二杉, 19950922 (平内)

甲殻綱 Crustacea

等脚目 Isopoda

フナムシ科 Ligiidae

ニホンヒメフナムシ *Ligidium japonicum*
Verhoeff, 1918

以前、布村が確認したことがあるが、今回は
確認していない。

トウヨウワラジムシ科 Trachelipidae

ホクリクサトワラジムシ *Mongoloniscus hoku*
rikurensis (Nunomura, 1987)

常願寺川橋下, 19940909, 1♂1♀ (布村) ; 泊新, 1
9941002, 1♀ (布村)

ムカデ綱 Chilopoda
 イシムカデ目 Lithobiomorpha
 イシムカデ科 Lithoidae
 スジイシムカデ *Lithobius sulcipes*
 流杉, 19931112, 2♂1♀ (布村)
 ヒトフシムカデ属の数種 *Monotarsobius* spp.
 大場, 19940909, 1♀ (布村); 泊新, 19940909, 1♀ (布村); 三ツ塚, 19940909, 1♀ (布村); 水橋二杉, 19950922, 32y (平内)

ヤスデ綱 Diplpoda
 オビヤスデ目 Polydesmida
 オビヤスデ科 Polydesmidae
 オビヤスデ属の1種 *Epanerchodus* sp.
 大場, 19940909, 1ex (布村); 流杉3令1, 5令1, 6令♀1.

昆虫綱 Insecta
 カマアシムシ目 Protura
 カマアシムシ科 Eosentomidae
 カマアシムシ *Eosentomon sakura* Imadate et Yoshii, 1959
 水橋二杉, 19950922, (平内)

トビムシ目 Collembola
 ヒメトビムシ科 Hypogastruridae
Venylla brevispina Kinoshita, 1916
 三ツ塚, 19941111, 65exs (布村); 水橋二杉, 19980922, 1 (平内)

シロトビムシ科 Onychiuridae
Onychiurus (Protaphorura) yodai Yosii, 1969
 水橋二杉, 19950922, 2exs (平内)
Onychiurus (Paronychiurus) flavescens Kinoshita, 1916
 水橋二杉, 19950922, 1ex (平内)

アヤトビムシ科 Entomobryidae
Sinella (Coecobrya) sp.
 水橋二杉, 19950922, 1ex (平内)
Entomobrya sp.

水橋二杉, 19950922, 5exs (平内)
 三ツ塚, 19941111, 65exs (布村); 水橋二杉, 19980922, 1ex (平内)
Homidia nipponica Yosii, 1942
 水橋二杉, 19950922, 4exs (平内)
Willowsia platani (Nicolet, 1841)
 水橋二杉, 19950922, 8exs (平内)
Lepidocyrtus sp.
 水橋二杉, 19950922, 5exs (平内)

マルトビムシ科 Sminthuridae
Shyrotheca multifasciata (REUTER, 1878)
 水橋二杉, 19950922, 8exs (平内)

トビムシ目とカマアシムシ目のほか、昆虫は全調査地点で個体数も種類数もかなり多く出現している。中でも双翅目の幼虫は特に個体数が多かった。半翅目(カイガラムシ上科とアブラムシ上科)アザミウマ目、膜翅目、双翅目、鞘翅目(ハネカクシ科 アリヅカムシ科)、膜翅目、鱗翅目(幼虫)などが採集されているが同定に至っていない。

謝 辞

クモ類は追手門学院大学の加村隆英博士、カニムシ類は鶴見学園の佐藤英文博士に確認いただいた。トゲダニは東雲女子大学石川和男博士、ケダニは東雲短期大学の芝実博士、ササラダニは大西純博士、トビムシは釧路西高校の須摩靖彦博士、カマアシムシは埼玉県立自然史博物館の中村修美博士、ムカデ及びヤスデ類独協医科大学の石井清博士に同定を賜った。

文 献

太田道人, 1995. 生態系に配慮した川づくりに資するアキグミ林を中心とした河川敷の生態系に関する研究報告書. 河川整備基金助成事業. (1995年12月31日受理)

姿を消したジャコウアゲハ

大野 豊
 富山市科学文化センター

A Disappeared Swallow Tail, *Atrophaneura alcinous*
 Yutaka Ohno
 Toyama Science Museum

ジャコウアゲハを漢字で書くと麝香揚羽となる。麝香は漢方薬として知られているが、匂いの強い生物の名前に付けられている例が幾つかある。ジャコウアゲハの成虫にも強い匂いがあり、それは幼虫が食べる植物のウマノスズクサに匂いがあるためと思われる。また、ウマノスズクサは有毒成分であるアルカロイドを含むため、それを食草としている幼虫や成虫は鳥から嫌われ、食べられる危険性が低い。そのため幼虫やサナギは派手な色や形をしており非常に目立ち、成虫は実にのんびりと飛ぶ。本邦における分布は、沖縄から東北地方まで見られるが極めて稀となり、北海道には分布しない。富山県では図-1のとおり各所に記録はあるものの局所的である。成虫は沖縄等の南西諸島では通年発生しているが本州では2~3回発生しており、富山県では5月初旬と6月下旬と8月中旬の3回発生している。いずれの生息地にもウマノスズクサが分布する。普通、大型のアゲハチョウは、発生地を離れることはないが、何らかの条件で、突然移動する習性を持っているようである。近年、小矢部川流域の生息地で本種の姿が見られないの気づき、一部調査したが不十分である。通常、生物が生息するとするデータより生息しないとするデータは非常に難しことは万人の認めるところである。については諸氏より情報を得たいと考え中間報告として経緯を報告する。

1. 富山県における分布

生息地は明るい河川の堤防や山地の山裾、海岸の荒地などで、いずれも食草のウマノスズクサの生育する場所に限定されている。小矢部川流域で

は最も広く見られる。庄川では古くは庄川峡の記録があるものの、その詳細は判らない。神通川では熊野川流域と、海岸に近い岩瀬周辺で見られる。滑川市では海岸沿いで見られ、それは神通川河口付近の蓮町(1)、岩瀬(m)、東岩瀬(n)に続く海岸沿いの生息地となる。上流域では余り見られないが、神通川流域の楡原(k, 標高約200m)と支流の山田川の山田温泉(i, 約250m)、および野積川獺師ヶ原(j) (標高約450m)で記録されている。これら山あいの記録地は、食草のある生息地であるか、偶産地であるかについては確認の必要がある。魚津市では角川(p)、布施川(q)の堤防ぞい及び山裾で見られる。黒部川流域の記録はない。朝日町では海岸の宮崎(r)及び笹川(s)沿いで記録がある。

県内における最も高標高地の記録は、獺師ヶ原(標高約450m)である。全国的には栃木県の奥日光中禅寺湖畔千手ヶ浜(標高約1300m)や長野県では700m~800mでの目撃記録がある。いずれも本種の移動中の記録であると思われる。高標高地での記録がないのは県内の本種に対する関心の低さからであろう。

筆者が県東部で確認した地点は1977年8月16日



図1. ジャコウアゲハ(♀) 福野町福野